

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人 沼風会		
事業所名	グループホーム 沼風苑		
所在地	〒277-0912 千葉県柏市箕輪588番地 (電 話) 04-7160-8500		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	2月22日	評価確定日	3月10日

【情報提供票より】(平成20年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤15人, 非常勤16人, 常勤換算	21人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建1棟 平屋建 1 棟		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	光熱費月額 15,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有500,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,800 円		

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護1	2	要介護2	7
要介護3	9	要介護4	7
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 88 歳	最低 76 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは2棟の木造作りからなる3ユニットの施設である。間取り、日当たりなど随所に工夫が見られ、閑静で心落ち着く手賀沼のほとりに位置する。ユニットは各々特徴を持ちつつ随時に交流があり、施設全体にアットホームな雰囲気がある。隣に法人の経営する特別養護老人ホームがあり、大浴場や特別面会室などの施設・設備を多機能的に活用することが出来る。人材の活用ではグループ全体で人事異動の仕組みがある。特定の職場に留まることなく、職員夫々が特性を生かしつつ業務を遂行できるように図っている。様々な課題を抱えつつ、地域に愛される施設を目指し努力する姿勢がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価結果は玄関に備えられており、全ての人が閲覧可能となっている。職員は全員がこの評価に目を通しており、各部門で外部評価委員会をたちあげるなどして積極的にその活用を図っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価では管理者がスタッフのヒヤリングを行い課題を吸い上げ、自身の考えを含め評価を作成している。職員によるバラツキはあるものの、より具体的に改善に取組む姿勢がある。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目②	運営会議は柏市の規定により、市役所職員・介護相談員・民生委員・老人クラブ役員・家族等の構成で年3回開催している。会議内容は施設運営に関する報告、外部評価の結果とそれに対する取組み、前回会議で出された課題への取組みなど多岐にわたる。メンバーから出された意見を参考にし、サービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホーム独自の広報誌「陽だまり」を年3～4回発行し、施設の活動報告や行事の案内などを行っている。家族の面会時には出来るだけ時間をとり詳しい報告を行っている。入居時に預かった金銭は個人台帳を作成、その動きについては毎月1回報告を送っている。各ユニットにはご意見箱を設置しているがあまり利用はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 社会福祉協議会を通しての地域との交流や、地域福祉祭りなどへの参加を行っている。グループホームの近くにはあまり民家がないが、散歩の時などに田畑で作業をする人などと声を掛け合っている。ボランティアの受入れは多くなく、今後の課題として取組みを期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由、開放的、安心、安全」を理念として管理者と職員は利用者の生活を支えている。福祉サービスの基本となる分かりやすい独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者を心身ともに制約しないで自由に生活を楽しんでもらうよう配慮し、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの近隣に民家がない為、近所の付き合いはないが、散歩に出かけた時は畑の方と声を掛け合っている。又、地域の社会福祉協議会を通して交流を図っている。今後はボランティアの受け入れや交流を広げていく予定である。	○	地域とのつきあいは地区社協との関わりの取り組みの他、当法人がボランティアを育成するような積極的な取り組みにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3ユニットとも玄関に昨年の評価結果が掲示しており、誰でも閲覧することができる。職員は全員評価結果に目を通しており、外部評価検討委員会を立ち上げて積極的に活用し、サービスの向上に活かしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは市役所職員、介護相談員、民生委員、老人クラブ役員、家族等である。柏市の規定により年3回実施している。毎回グループホームからの報告を行い、メンバーからの様々な意見をサービス向上に向けて活している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に市高齢者支援課や地域包括支援センターの職員と連絡を密にし、指導を受けている。グループホーム連絡協議会の活動を通して市町村との関係を強めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、個々の利用者の連絡が必要なときは随時報告をしている。又、グループホーム独自の広報誌「陽だまり」を年3～4回発行し、家族等に発送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置している。家族からの意見や苦情についてはその都度対応し、職員の教育や運営に反映させている。	○	家族は意見箱や直接苦情を出しにくいとの心情を理解し、職員はさらに家族の意見を聞く方法について検討いただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は半年に1度の職員異動を行っている。職員はグループホーム、特養ホーム、デイサービス等どこでも対応できる技術を身につけている。異動については広報誌で家族に報告するが、異動により利用者への影響がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では運営者による認知症基礎講座を開催したり、職員間で対人援助技術を点数化し、利用者とのかかわり方を学ぶマッピングを実施している。各ユニットの職員は介護の課題を決め研究発表する等、自発的で積極的である。外部研修についても勤務をやりくりするなどして前向きに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市のグループホーム連絡協議会に加入し、年2回スタッフ同士の交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族等の見学の希望については丁寧に対応している。入居当初は職員や同居者等とのなじみの関係ができることを重視している。又、家族等の役割の大切さについても家族と話し合う機会を持ち、家族が共に宿泊する等で利用者に安心を与えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は夫々の状況に合わせて、食事の配膳、下膳、洗濯物たたみ等、簡単な家事を行っている。職員は利用者のやさしさや温かい言葉かけに癒されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は利用者や家族等と話し合いを充分行い、利用者や家族等の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。利用者の日常の思いについては常に担当職員からの聞き取りを行い、本人の意向を第一に考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は担当職員と共に利用者、家族等からのアセスメントを実施し、担当者会議で介護計画を作成している。職員と充分話し合い、利用者のできることに注目し、無理のない介護計画を作成することに心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者は職員と共に定期的には3ヶ月に1回のモニタリングと介護計画の見直しを実施している。利用者の状況に変化があった場合は随時モニタリングし、再度アセスメントを実施して介護計画を見直し、新規の利用者の介護計画については随時対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人併設の特養ホームの大浴場や喫茶室、食堂を利用している。法人内には、利用者と家族が共に過ごせる離れ風の特別面会室があり、利用者はこのような施設を利用して食事会も行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から毎週往診医が訪問し、利用者は2週に一度の定期的受診や随時の診察を受けることができる。他のかかりつけ医の受診を希望する利用者は家族が対応している。毎回、利用者毎の受診結果を記録し、変化があった時は家族に必ず報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末をグループホームで迎えたいとの意向に沿って利用者、家族等、医師、看護師、職員で何度も確認をしている。現在のところ終末期をできる限りグループホームで過ごし、最終的には病院で最期を迎えている。	○	今後も看取りについて利用者、家族等、医師、職員間での話し合いを継続し、医療との連携や職員研修、研究の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の居室に入る際には必ず声をかけ、利用者の自尊心の保持に留意している。入浴、排泄介助の折にはさりげなく援助するなど、利用者の誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見を尊重している。利用者が拒否することに対しては無理強いしないように対応している。しかし、時には職員サイドで段取りを組み立てることもある。	○	職員は多忙の中で時には職員サイドでスケジュールを考えることもあるが、利用者一人ひとりの一日がかけがえのないものであることを認識し、さらにケアの質の向上の検討を深めていただきたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は配膳、下膳、野菜切り、テーブル拭き等、無理のない程度に協力している。職員は食事委員会を作り、利用者の好きなメニューについて検討し、献立を立てている。ウッドデッキでバイキングを楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は毎日設定しているが、夕方を希望する利用者が多く、平均すると3日に一度の頻度で入浴している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯等を取り入れ、より入浴を楽しめるような工夫をしている。	○	利用者の入浴時間の希望が集中したり、入浴したがないため、3日に一度の入浴となっている。職員はさらに各利用者の入浴時間の希望の確認や利用者への働きかけのタイミングの工夫等を重ねていただきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かし、米とぎ、縫い物、俳句、習字、ぬり絵等役割や楽しみごとの支援をしている。利用者の作品をホーム内に掲示したり、市のシルバー展に出品し利用者の励みとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日のように行っている。買い物や喫茶店には利用者の希望に沿って随時支援している。お花見等、季節に合わせて車で外出も2ヶ月に一度程度実施している。近くの温泉施設の足湯は好評である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、人手のない時など、鍵をかけることがある。鍵をかけることを要求する家族もあり、人間的、現実的にはやむ終えないと職員は考えている。	○	人手のない時や家族の希望を踏まえて日中鍵をかけているが、職員間の声かけや見守りの工夫等、職員間で検討し、鍵をかけないケアの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、年3回の防災訓練を実施している。職員で防災委員会を設け、毎回火元の設定を変えて訓練している。救急法の研修も行っている。2階のユニットの利用者の避難については非常階段となっており、職員は不安を感じている。	○	今後は地震など天災時の対策や避難訓練も計画していただきたい。2階からの非常階段を利用する際の対策は充分検討をいただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は水分チェック表や食事摂取表を作成し、各利用者の体調を把握している。又、栄養士から栄養指導を受け、常に利用者の栄養状態の維持、向上に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニットが同じような設計でありながら、それぞれが個性的な雰囲気をかもし出している。中庭を中心に共有スペースや一人静かに過ごすことができる空間もあり、随所にさりげなく花が生けられている等、居心地のよい工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室は馴染みの家具が置かれ、家庭的で落ち着いた雰囲気である。ベッドやコタツ等利用者の好みに合わせた生活スタイルを選ぶことができ、自宅での生活が継続できるよう、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。